

令和7年度 職員自己評価

自己の評価は、日頃保育に関わっている者として自分の保育を確認し、気づき問い直すきっかけを作るものと考えており、評価の判断基準は自分です。自分の保育を客観的に見て改善し、職員みんなで共通の意識を持つ様にしており、以下の項目を自身で評価しました。

評価方法は、A、十分理解している（十分出来ている）B、理解している（出来ている）C、努力が必要な3段階です。

内 容

◎ 子どもの発達

- ① 保育指針に基づく子どもの発達過程のおおむね8つの区分を理解し、一人一人の発達に合わせ援助していくことの重要性を理解している。
- ② 発達過程に「おおむね」がつくことで、個人の発達には幅があり、前後の年齢に繋がりをもって成長している事を理解している。
- ③ 家庭環境の差、身体能力の差、精神的成長の差から生じる、子ども一人一人の違いを理解している。
- ④ 一人一人とコミュニケーションをとり、信頼関係を築いている。
- ⑤ 自分を表現する力が十分でない子どもの気持ちを汲み取るようにしている。
- ⑥ 禁止語を不必要に用いないようにしている。
- ⑦ 登園時に泣く子に対して、子どもの状況に応じて優しく声を掛けたり、抱きしめたりしている。
- ⑧ 日々の生活の中で、子どもが安心感と自己肯定感を持てるような言葉がけをしている。
- ⑨ 子どもの心身の癒しがなされるように配慮されている。

◎ 保育の内容

- ① 一人一人の健康状態や発達について把握し、異常に気付く事が出来る。
- ② 個人と集団で行う活動の違いを熟知し、子ども達が人間関係を築ける機会を作っている。
- ③ 個性、特性を十分に理解すると共に子ども達が自ら発言できる機会を作っている。
- ④ 相手の言葉に耳を傾け、意見を尊重出来るよう子ども達に指導が出来る。
- ⑤ 人の命の尊さを教え、他者をいたわり大切に作る気持ちを養う保育が出来る。
- ⑥ 大きな自然、小さな自然、あるいは街中の様子などから、まず保育士自身が季節の変化を感じ取る感受性を大事にしている。
- ⑦ 子どもの知的要求の変化に気づき、探求心、知的好奇心を満たしたり、引き出したりするような会話や配慮をしている。
- ⑧ 保育士自身が豊かで美しい言葉を使用し、思いを込めて会話するよう心掛け、人の話を聞く態度を身に着けさせることが出来る。
- ⑨ 子どもが、自分の話を十分聞いてもらった、伝わったという楽しさや満足感が持てるように配慮している。
- ⑩ 基本的な生活習慣に基づいた挨拶など、日常生活に必要な言葉を丁寧に使う事が出来る。
- ⑪ 子ども達の興味や関心に沿った絵本や物語を用意出来る。
- ⑫ 探求心を満足させ、観察力を育てる保育の環境設定に配慮している。
- ⑬ 日々の保育の中で、感動や発見が出来るよう、変化に富む保育内容に配慮している。

◎ 保育の計画及び評価

- ① 目標は、前年度の反省を生かしている。
- ② 目標は、全員で検討し、かつ共通理解を図っている。
- ③ 保育過程に基づいた具体的な指導計画を作成出来る。
- ④ 各年齢の発達段階を理解し、それぞれの年齢に合った指導計画であり、個々の発達にも留意した物を作成できる。
- ⑤ 保育士は、自らの保育実践を振り返り評価し、専門性の向上や改善に努めなければならない事を理解している。(計画・実施・評価・改善)

◎ 健康及び安全

- ① 子どもの感染症やその他の疾病についての知識を持ち、必要な援助が出来る。
- ② 基本的なアレルギーの種類(食物・接触・薬)や特性について理解している。
- ③ 無理なく好き嫌いをなくす援助が出来る。
- ④ 食べることの意味や命について考える機会を作っている。(人の命、動物の命、植物の命)
- ⑤ 食事のマナーを子どもや保護者に伝えられる。

◎ 保護者に対する支援

- ① 日々、信頼を得られる行動をしている。
- ② 保護者の思いを受け止め、様々な思いの相談・依頼に適切に対応している。
- ③ 保護者の話を落ち着いて聞き、状況、問題点を把握できる。
- ④ 手紙、公文書などの基本的な書き方を知り、誤字、脱字の無い内容が正確に伝わる文章が書ける。
- ⑤ 早番や遅番で保護者からの伝達事項がある時は、メモを取り、確実に担任に伝えている。
- ⑥ 職員会議等で各クラスの状況報告を聞き、担任ではなくても各クラスの様子を把握している。
- ⑦ 保護者、入所児童、又職場に関しての秘密は絶対に他言しない。

◎ 職員の資質向上

- ① 保護者、来客に対して季節・時間に合わせた好感の持てる挨拶が出来る。
- ② 正しい言葉使いが出来る。
- ③ 電話が鳴ったら早く出るようにしている。
- ④ 電話の要件は間違えないようメモに残し、確認や伝達を行っている。
- ⑤ 周囲の人や来客に清潔感を与える応対や身だしなみを実践している。
- ⑥ いつも笑顔で対応できる。
- ⑦ 子どもの発達段階を意識し、活動的で子どもが心地よく感じる服装を心掛けている。
- ⑧ 髪が顔にかかったり、爪が伸びたり等、不衛生にならないよう日頃から心掛けている。
- ⑨ 睡眠を十分にとり、勤務に支障をきたさない規則正しい生活を送っている。
- ⑩ 体調異常の時は、速やかに通院している。
- ⑪ 日常生活で、保育士としての度を越す言動をとらない。
- ⑫ ハラスメントや虐待など保育士にあるまじきことをしない。
- ⑬ 保育園及び職員の不満を他言しない。
- ⑭ 勤務開始時間の10分以上前に出勤している。
- ⑮ 指導計画をもとに、日々の乳幼児の状況に沿った保育をしている。
- ⑯ 毎朝行事予定表・日案に目を通し確認、記憶している。
- ⑰ 自ら進んで勤務を完全遂行する、積極的な姿勢がある。

- ⑱ 担当勤務以外でも自ら気づき、声を掛けあい協力している。
- ⑲ 会議などで積極的に発言出来る。
- ⑳ 「みんながやっているから」「以前からの慣例だから」と言う思いにとらわれない。
- ㉑ 自分だけの不都合かどうか、客観的に見る事が出来る。
- ㉒ 人間としての資質を磨く様に努力する意欲がある。
- ㉓ 保育士としての基本である研修に取り組む意欲を持っている。
- ㉔ 苦手な分野の情報や研修を知ろうとする意欲がある。
- ㉕ 保育行政や他施設の保育内容に関心がある。
- ㉖ 保育に関する情報誌、専門書またはインターネットなどの外部情報を取り入れている。
- ㉗ 研修報告などで気づいた事を自分の業務に反映出来る。
- ㉘ 他人の意見に耳を傾け「聴く」という事が出来る。
- ㉙ 相手がどのような思いで意見を発し、行動を取ったか考える事が出来る。
- ㉚ 保護者の様々な職業を理解し、相手の立場に立った考え方が出来る。
- ㉛ 長時間保育の保護者にねぎらいの言葉をかけている。

☆ 評価結果

自己評価を毎年行う事で保育者一人一人に評価項目の内容が根付いてきました。

個々の経験年数も上がっていますので、より、子ども達の事を考えた保育を意識していると思えました。

概ねA、十分理解している（十分出来ている）となっています。

以下は評価内容についてです。

◎「子どもの発達」に関して十分理解されていきました。保育者は日々の保育を年齢や発達に応じて、子ども達がしたいと思える事、出来る事に配慮しながら行っており、まだ出来ない事はどうすれば出来るようになるのか、やりたくない事は、どうすれば意欲を持てるのかを考えていました。

保育園は0歳のお子さんからお預かりし、友達や先生と集団生活を共に送る中で様々な経験を通して生活習慣を学び、運動面、情緒面での発達がなされていきます。この事は、「保育の内容」「保育計画及び評価」項目にも繋がっていますが、自主性を重んじながらも基本的な生活習慣とされる食事、睡眠、排泄、清潔、衣服の着脱に加え、挨拶が出来る、時間を守る。更に、社会適応、ルールを守るという事を視野に入れ、子ども達と日々過ごしています。各年齢に応じた指導計画、月々の保育計画も、季節の行事を取り入れながら立てられています。

又、「今までしてきた事」を重視する場面と、保育者のアイデアを取り入れた新しい方法、面白い事を提供する保育を話し合っていて進められているとありました。

「健康及び安全」では、特にアレルギーに関して栄養士、保育者が十分に気をつけていました。

インフルエンザ等、流行性の疾病に関しても、感染対策がしっかり意識付けられています。

「保護者に対する支援」では、心配事等のお話があった時には職員間でしっかり伝達し合い、一人一人のお子さんの様子を共有し、園全体で見守れる様にと協力体制が取られています。お子さんの園での様子を伝えていく事も大切に考えていました。

☆ 上記を踏まえたうえで、最後に、『保育園職員の良いところ』『自分自身の課題』など、記載しています。評価最後の項目「職員の資質向上」にも繋がっていきます。

- ・明るい・元気・笑顔・優しさが今年度もあげられていました。
- ・職員間では、相談しやすく助け合い、協力し合える。コミュニケーション、報告、連携が円滑。
- ・職員個々の長所を生かし、足りないところを補い合う。

- ・保護者からの相談や悩みなど丁寧に聞き取る。一つ一つ問題解決の為に努力する。
- ・子ども達に対して、一緒に楽しく遊べる。笑顔で接し寄り添う。その子の気持ちになって考える。
- ・成長が著しいクラスでは、対応方法が子ども一人一人違うので、保育士間での話し合いを多く持ちより良い保育を心掛ける。
- ・もっと周りを見て、自分に出来る事は何かを考えて、行動する。
- ・食べ物の好き嫌いがある子に対してどうしたら美味しく食べて貰えるのか。
- ・今まではこうだったではなく、今の状況を考えた変化や対応が望ましい。
- ・一人一人の話をしっかり聞き、その子にあった対応を考える。
- ・情報を集め、楽しい保育。・月齢に応じた保育の工夫。・発想力を育て、視野を広げられる保育。

(職員一人一人が書いてきた項目を抜粋しました)